医療法人
財団 檜扇会
通信54号

心・体・暮らしに寄り添うクリニック

クリニック東京虎ノ門COR
クリニック 名古屋ちくさヒルズ

2025年
8月号

2025年6月号ではがん治療を中心に高額な医療費の実態を紹介させていただきましたが、今号では逆の視線で「低価値医療」について考えてみましょう

このお話は、このページだけでは言い尽くせないほどの問題を抱えています。
風邪や糖尿病などで診療所を受診した患者は年間に約10人に1人が、効果が乏しいとされる医療を受けている、との分析結果を筑波大などの研究チームがまとめています。医療費の無駄遣いや、副作用につながる可能性があるとして、医療費対象から外す削減の必要性を訴えています。

同研究チームでは、風邪に対する抗菌薬やせき止め薬、糖尿病の手足のしびれに対するビタミン剤の処方など、効果が乏しいとの科学的根拠がある10の処方や検査に着目して、名称はともかく「低価値医療」と位置付けたのです。これは、2022年10月から1年間に診療所を受診した約250万人分の診療報酬明細書(レセプト)で提供の実態を分析した結果です。

その結果、低価値医療の提供を受けた患者は少なくとも27万人おり、約10人に1人の割合でした。研究チームは、低価値医療を減らすことで、医療費を抑制し、その分を必要な医療サービスに振り分けることができるとして、「低価値医療を多く提供する医師に、研修を受けてもらったり、自身の提供の実態をデータで知ってもらったりするなどの取り組みが必要だ」とまで踏み込んだ話をしています。

日本は医療がフリーアクセスということもあって、特に冬場の診療所や中小病院の外来診療は風邪で受診する患者が多く、一般的な風邪の患者の場合、抗生剤(クラリスロマイシンなど)や解熱剤(ロキソニン)、鎮咳薬(コデイン)、去痰薬(ムコダイン)やトラネキサム酸など多剤処方の「セット」で対応するのは合理的のようでありますが、先進的他国では、風邪の患者に対する処方は解熱薬(アセトアミノフェンやNSAIDs)が中心で、積極的に鎮咳薬などを出すこともなく、例えば咳嗽(ｶﾞｲｿｳ)に対して最近の英国のNICEガイドラインは、蜂蜜が咳に効く一定のエビデンスがあるとし、5～10mLの蜂蜜と紅茶を混ぜて服用することを推奨しています。

では、日本の保険診療で患者満足度と医療経営を両立させるには、多剤処方に頼るしかないのだろうか。風邪に多剤処方しないことは、医学的に「過小医療」なのだろうか。
患者は多剤処方で本当に満足するのか、どのようにすれば日本の風邪患者に多剤処方せずに満足してもらえるのだろうか。

クリニック名古屋ちくさヒルズ
林祐司 院長

冒頭でも書きましたが、何が正しい選択なのか色々と議論を呼んでいます。ましてや、今の日本は他国に比して高齢化率が非常に高く、高齢者医療費も国民医療費全体の約4割強占めています。決して国家財政が豊かではなく、国の借金は想像もつかないほどの債務を抱えています。民間企業、医療機関であれば、とうに倒産してしまっている状態なのです。しかし、一方では人の命の大切さを思うことも当たり前のことです。当クリニックでは、病のみを診るのではなく、患者さんの心理的・社会的・経済的側面を理解し、寄り添いながら各人に最適な医療を提供すことに心がけています。

財団檜扇会　理事長
林　衆治 先生

「再生医療」シリーズ　第3弾

今号シリーズ第3弾として「幹細胞治療」以外の他の治療法をいくつか紹介してみましょう

まず昨今多いのが「PRP療法」と言う治療法です

PRP とは、Platelet Rich Plasma（多血小板血漿: タケッショウバンケッショウ）の略で、止血や血管・細胞を治す働きを持つ血小板を多く含んでいます。
PRP 療法では、患者様ご自身の血液を採取し、PRP を高濃度に抽出します。その濃縮されたPRPを損傷した患部に注入します。これは、患者様ご自身の血液成分だけを用いた治療ですので、免疫反応が起きにくいという点でも大きなメリットです。
それによって、体内の傷ついた組織周辺に血小板が集まり、血液凝固の過程で様々な成長因子を放出し、修復が促進されるという治療方法です。
一般的に1週間～6ヶ月で組織修復が起こり、治療後2週間～3ヶ月あたりで効果の出現が期待できます。また、繰り返し治療を行うことも可能です。

次は、「幹細胞培養上清液」を用いた治療法です

幹細胞上清液（かんさいぼうじょうせいえき）とは、再生医療に使用される幹細胞を培養した後に残った培養液を遠心分離器にかけて不純物を取り除き、さらに滅菌した上澄み液のことです。
上澄み液の中には、幹細胞から抽出された数百種類もの成長因子やタンパク質が含まれています。それらを点滴や注射で体内に直接投与することによって細胞を活性化させます。
幹細胞上清液は優れた抗炎症作用を持ち、老化したり傷ついたりした細胞の修復をおこないます。幹細胞そのものは取り除かれているため、アレルギーやウイルスによる感染リスクも低いのが特徴です。また、幹細胞治療と類似する効果が期待され、体内の損傷部位の細胞を活性化する性質を持っていますので様々な症状を改善することが期待されます。

そして最後に「免疫細胞療法」を紹介しましょう

体内に存在するがん細胞やウイルスに感染した細胞を探し出して排除する、人間が本来持っている防衛機能を高めるための治療法です。健康な方と比べて、がんを発症されている方は免疫細胞が少なくなっていたり、活性化することが難しい環境になっています。そのため、免疫細胞療法では、患者様ご自身の免疫細胞を採取し、がん細胞など体内の異物を見つけて排除する機能を最大限に高めるための良質な細胞を増殖させます。その後、増殖された細胞を体内に戻すことで患者様の免疫力を高めることで、がんの予防や治療につながります。患者様ご自身の身体への負担が少ないため、放射線治療・抗がん剤治療・手術など他の治療法と併用が可能であると言うメリットがあります。

健康の知恵袋

このようにわかりやすいご説明は私ども患者の立場からすると、幅広い情報から、適切な治療選択肢を選ぶのに大いに役立ちますね。参考までに貴クリニックのホームページを閲覧させていただきましたが、 大変に参考になりました。最近では動画配信も見ています。

広報紙　「医療法人檜扇会クリニック通信」
発行　医療法人財団檜扇会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
〒464-0858　名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F
ご意見はこちらまで　info@clinic-chikusahills.com
編集・発行　医療法人財団檜扇会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
編集委員会（原稿責任者　川島和信）
発 行 日　毎月1日